

令和元年9月11日

報道機関 各位

出産1ヶ月後の産後うつが 出産1年後の対児愛着を予測する (エコチル調査より)

富山大学エコチル調査ユニットセンター 笠松春花 研究支援員らのグループは、母親の産後うつと子どもへの愛着指標の関連を調べた結果、産後うつが出産1年後の対児愛着の状況を予測することを「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」から明らかにしました。

本グループはこれまで、母親が子どもを大切に思う気持ち「対児愛着（ボンディング）」の障害と産後うつとの関連を出産後1ヶ月時点での検討で示しました（Tsuchida, et al. Journal of Psychiatric Research 2019）。

この度の研究では、さらに出産1年後までをより詳細に追跡し評価しました。約83,000人の母親を対象に、産後うつがボンディングに与える影響を長期的に検討した研究は世界で初めてになります。

本研究より、産後うつに対して早期の対応をすることによって、母子の良好な関係を築ける可能性が示唆されました。

この研究成果は英国の精神医学系専門誌「Psychological Medicine」に2019年9月2日付で、オンライン掲載されました。<http://dx.doi.org/10.1017/S0033291719002101>.

※本研究は環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査に係る予算を使用し行いました。論文に示した見解は著者自らのものであり、環境省の見解ではありません。



研究の内容

「対児愛着(ボンディング)」は母親から子どもに向けられる情緒的な関心や愛情のことで、母親が子どもの世話をしたり、守ったりする動機づけにもなります。一方で、自分の子どもに対して愛情がわかず、世話をし、守りたいという感情が弱く、イライラしたり敵意を感じたり攻撃したくなるような「ボンディング障害」の症状に苦しむ人もおられます。「ボンディング障害」は虐待を含むマルトリートメント(不適切な養育)につながる危険性も示唆されており、子どもの成長や発達に悪影響を与える場合もあります。富山大学の研究グループは以前に、産後1か月時点の産後うつとボンディングの程度を評価し、産後うつに関連してボンディングが悪くなることを明らかにしました(Tsuchida et al., Journal of Psychiatric Research 2019)。今回の研究では以前の研究を踏まえ、エコチル調査に参加しているお母さん約 83,000 人の産後1か月および6か月の産後うつをまず調べ、調べた時点から時間経過した産後1年時点のボンディングの程度を評価し、両者の関連をより詳細に調べました。

ボンディングは、赤ちゃんへの気持ち質問票を、産後うつについてはエジンバラ産後うつ病質問票を用いて評価しました。この検討では、ボンディングに関連していると考えられる他の要因(これまでの出産経験や、過去の病歴など)を考慮して調べました。その結果、他の要因の影響を除外しても、産後1か月および産後6か月の産後うつはいずれも産後1年のボンディングが悪い状態と関連を示しました。また、産後1か月と6か月で、産後1年のボンディングとの関連の強さに統計的に意味のある違いはありませんでした。

これまで、産後うつの質問票からは「不安」、「快感消失」、「抑うつ」の気持ちの傾向を、ボンディングの質問票からは「愛情の欠如」と「怒りと拒絶」の気持ちの傾向(「因子」と呼びます)を読み取れることが示されています。本研究では、これらの因子について、どれとどれが関連を示すか検討を行ったところ、すべての因子同士が統計的に意味のある関連を示しました。そしてその中でも、「快感消失」と「愛情の欠如」、「不安」と「怒りと拒絶」が他の因子の組み合わせよりも強い関連があることがわかりました。

以上のことから、産後うつに対して適切なケアを施すことで、その後のボンディングの改善に結び付けられる可能性が示唆されました。また、産後うつに特有の症状とされる「不安」因子は「怒りと拒絶」因子と特に強い関連を示したことから、産後の「不安」のケアによっても、子へのネガティブな感情を抱くことを避けられる可能性が高いと言えます。

しかしながら、本研究は予防に関する実験的な研究ではなく、観察した研究であるため断言することはできません。今後は、産後うつをケアする早期介入プログラムを提供するといった研究を積み重ねて、さらに検証していく必要があります。

※本研究は、『Psychological Medicine』に2019年9月2日付でオンライン掲載されました。

<http://dx.doi.org/10.1017/S0033291719002101>.

ちょっと詳しく

ボンディングとは？

母親が子どもを愛し、世話したい、守りたいと思う情緒的絆のことを指し、一般的にボンディングと呼ばれます。この感情を評価するために、イギリスの研究者 Kumar と Marks らが「Mother-Infant Bonding Scale」を開発しました。各質問は赤ちゃんへの肯定的・否定的な気持ちを尋ねるもので、0, 1, 2, 3点の4件法で回答し、各回答からの得点で評価します（点数が高いと否定的な感情が強いとみなします）。日本では、九州大学の吉田らが翻訳し、赤ちゃんへの気持ち質問票として確立しました。

赤ちゃんへの気持ち質問票

- 1) 赤ちゃんをいとおしいと感じる
- 2) 赤ちゃんのためにしないといけない事があるのに、おろおろしてどうしていいかわからない時がある
- 3) 赤ちゃんの事が腹立たしく嫌になる
- 4) 赤ちゃんに対して何も特別な気持ちがわからない
- 5) 赤ちゃんに対して怒りがこみあげる
- 6) 赤ちゃんの世話を楽しみながらしている
- 7) こんな子でなかったらなあと思う
- 8) 赤ちゃんを守ってあげたいと感じる
- 9) この子がいなかったらなあと思う
- 10) 赤ちゃんをととても身近に感じる

参考：公益財団法人 母子健康協会

http://www.glico.co.jp/boshi/futaba/no77/con01_03.htm

産後うつとは？

産後、10～15%の母親にうつ病の症状があるといわれ、とくに産後1か月ごろに多く発症すると言われています。エジンバラ産後うつ病質問票は、産後のうつ症状を簡便にスクリーニングするため開発された10項目からなる質問票です。赤ちゃんへの気持ち質問票と同様に0, 1, 2, 3点の4件法で回答し、各回答からの得点で評価します（点数が高いと抑うつ的な感情が強いとみなします）。日本では、三重大学の岡野らが翻訳し、日本語版を確立しました。

【「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」とは】

子どもの健康や成長に影響を与える環境要因を明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ことを目的に2010年度に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。妊娠期の母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが13歳になるまでの健康状態や生活習慣を2032年度まで追跡して調べることをしています。

エコチル調査の実施は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された15の大学に地域の調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が協働して行っています。

富山大学は、富山市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町を調査地区とする「富山ユニットセンター」として本調査に参加しています。

- 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」WEB サイト
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>
- 富山大学 エコチル調査WEB サイト
<http://www.med.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/>



（本件に関するお問い合わせ）

国立大学法人富山大学 エコチル調査富山ユニットセンター
担当 笠松春花

TEL : 076-415-8850

Fax : 076-415-8843

E-mail : ksm1024@med.u-toyama.ac.jp

（取材対応窓口、詳細の資料請求など）

国立大学法人富山大学 総務部総務・広報課

TEL : 076-445-6028

Fax : 076-445-6063

E-mail : kouhou@u-toyama.ac.jp